

2018 年度小委員会活動成果報告

(2019 年 1 月 21 日作成)

小委員会名	構造工学論文集編集小委員会	主 査 名：竹脇 出 就任年月：2017 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	構造委員会	委員長名：塩原 等
設 置 期 間	2017 年 4 月 ～ 2021 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>・ 1 編につき 3 名による査読付き論文集『構造工学論文集』(日本学術会議土木工学・建築学委員会監修)を毎年 1 回刊行し、掲載論文を中心としたシンポジウムを開催することにより、産・官・学、各界の研究者・技術者に学術交流・技術交流の場を提供し、構造工学の一層の発展を図ることを目的に活動を行う。</p> <p>初年度：査読付き論文集『構造工学論文集 Vol.64B』の刊行 第 63 回構造工学シンポジウムの開催</p> <p>2 年度：査読付き論文集『構造工学論文集 Vol.65B』の刊行 第 64 回構造工学シンポジウムの開催</p> <p>3 年度：査読付き論文集『構造工学論文集 Vol.66B』の刊行 第 65 回構造工学シンポジウムの開催</p> <p>4 年度：査読付き論文集『構造工学論文集 Vol.67B』の刊行 第 66 回構造工学シンポジウムの開催</p>	
委員構成 (委員名 (所属))	<p>委員公募の有無：無 (構造工学にかかわるあらゆる分野が論文の対象となるため、各運営委員会主査を委員に配するなどして、分野構成には特に考慮している)。</p> <p>主査：竹脇出 (京都大学)</p> <p>幹事：五十嵐規矩夫 (東京工業大学)、五十田博 (京都大学)、斉藤大樹 (豊橋技術科学大学)、真田靖士 (大阪大学)、米田雅子 (日本学術会議、慶應義塾大学)</p> <p>委員：井戸田秀樹 (名古屋工業大学)、河野進 (東京工業大学)、堺純一 (福岡大学)、塩原等 (東京大学)、高田豊文 (滋賀県立大学)、高橋徹 (千葉大学)、竹内徹 (東京工業大学)、長島一郎 (大成建設)、土方勝一郎 (芝浦工業大学)</p>	
設置 WG (WG 名：目的)		
2018 年度予算	350,000 円	ホームページ公開の有無：有 委員会 HP アドレス： http://news-sv.ajj.or.jp/kouzou/s11/

項 目	自己評価
委員会開催数	4 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	1. 『構造工学論文集 Vol.65B』
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) * 能力開発支援事業委員会 承認企画	<p>1. 第 64 回構造工学シンポジウム 参加者数 329 名</p> <p>①特別講演会 「地震被害から何を学んできたかー地震防災を改めて振り返る」 参加者数 107 名</p> <p>②建築・土木合同パネルディスカッション 「熊本地震が構造物やインフラの設計に与えたインパクト」 参加者数 107 名</p>
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	1. すべて滞りなく達成した。
委員会活動の問題点 ・ 課題	<p>1. 主催者である日本学術会議土木工学・建築学委員会並びに共催の土木学会構造工学委員会・論文集編集小委員会と、今後とも十分な事前調整が必要。</p> <p>2. 建築分野の投稿論文題数増加に向けた対策。</p>